☆　『気になる』児童生徒のための気づきシート～教科の視点①～

参考：福島県養護教育センター（H２１）「特別支援教育コーディネーターハンドブック」の資料１「気づきのためのチェックリスト」より

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 学年・児童生徒名 |  | 記入者 |  | 記入日 |  |
| **言語活動（国語）** |
| **聞く** |
| □　面と向かって話しても聞いていないように見える。 |
| □　指示された後、まわりの友達をキョロキョロと見渡す。 |
| □　聞き間違いがある。「しち」を「いち」、「らくだ」を「だくだ」など。 |
| □　集団の中で言葉の指示や注意が理解できない。 |
| □　指示されたことを忘れてしまい何度も聞き直す。 |
| □　友達同士の話の流れについていけない。 |
| **話す** |
| □　独特のイントネーションで話す。声のトーンが不自然である。 |
| □　単語や２語文、３語文の単純な文章だけで話す。 |
| □　場に合わない言葉を言うことがある。 |
| □　相手の言った言葉を繰り返すことが多い。 |
| □　話すときに音の誤りがある。「おとこのこ」を「おとののこ」、「さかな」を「たかな」など |
| □　会話が一方的で話題がとびやすい。思いつくままに話す。 |
| □　自分なりに話していても聞いている相手は何を言いたいのかが分からない。会話がかみ合わない。 |
| □　「だれが、いつ、どこで、何を、どうした」の基本的な要素が抜ける。 |
| □　早口だったり、ゆっくりだったり適切な速さで話すことが難しい。 |
| **読む** |
| □　音読が苦手である。 |
| □　促音や拗音などを含む特殊音節を読み間違える。「ちょうちょ」を「ちようちょ」、「きっと」を「きと」など |
| □　「は」と「ほ」、「あ」と「お」など似た文字を読み間違える。 |
| □　文字や行を飛ばして教科書を読む。 |
| □　文章は読めるがその内容や理由を問われると答えられない。 |
| □　読めないひらがな、カタカナがある。 |
| □　「いきました」を「いました」「だるま」を「だまる」などと読むことがある。 |
| **書く** |
| □　枠の中に文字を書けずにはみ出す。 |
| □　板書した内容をノートに写すことが難しい。時間がかかる。 |
| □　へんとつくりが逆の文字を書く。 |
| □　漢字の細かい部分を書き間違える。 |
| □　文字のはしを止められない。 |
| □　作文や日記を極端に嫌がる。 |
| □　「く」と「へ」「し」と「つ」を間違えて書く。 |
| □　助詞「は」「を」「へ」など混同して書く。 |
| □　独特の筆順で書く。 |
| □　筆圧が弱い、または強くて字が読みにくい。 |
| □　句読点が抜けたり、正しく打ったりすることができない。 |
| □　字のバランスが悪く、読みにくい文字を書く。 |
| □　決まったパターンの文章は書けるが、話したいことや伝えたいことを文章で書くことが苦手で作文や観察記録等を書くことが難しい。**＊子どもの困難さに気づき、支援方法を検討するための参考資料としてご活用ください。** |